

RACE REPORT



**S U P E R
F O R M U L A**

Round.10 **FUJI**

第 10 戦 富士スピードウェイ

2026 年 10 月 11 日 (日)

予選・決勝

天候：晴れ 路面：ドライ

#38 ト部 和久

予選 15 番手 決勝：16 位

#39 大湯 都史樹

予選 5 番手 決勝：4 位

公式予選ではト部和久が急遽参戦で初の予選ながら Q2 進出を達成、決勝では大湯都史樹が 7 位でポイント獲得を果たすなど、それぞれに良いところを得ることができた SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING。第 9 戦から一夜明けた 10 月 11 日 (日) は、第 10 戦に臨んだ。

前日の第 9 戦では、決勝で苦戦を強いられたものの、初レースウィークの 3 日間の集大成をみせたいト部、そしてセッテアッ変更のトライを成就させたい大湯と、2 台がそれぞれの思いをもって、まずは予選上位グリッド獲得を目指し公式予選に挑んでいった。

QUALIFY 公式予選

10 月 11 日 (日) 10:00 ~ 10:45 天候：晴れ 路面：ドライ
ベストタイム #38 ト部和久 1'23.361 / #39 大湯都史樹 1'22.555

前日も晴天に恵まれていた富士スピードウェイは、この日も快晴となり、富士山が美しく顔をみせるなか、気温 23 度 / 路面温度 32 度というコンディションで午前 10 時から第 10 戦の公式予選が始まった。

まず Q1 の A 組に出走したのは大湯。ベースアッを狙い取り組んだセッテアッ変更は、第 9 戦ではいまひとつまとまりきっていなかったが、「うまく狙ったところを出すことができました」と大きくポテンシャルを上げることに成功。1 分 22 秒 793 を記録し、A 組のトップタイムとなった。

続く B 組に出走したのはト部。「クルマも前日から少しだけ変更して、ポジティブな方向になっていました」と前日の Q2 進出に続き期待がかかる Q1 となったが、1 分 23 秒 361 というタイムを記録するも、「ヘアピンでミスをしてしまって、それが響きました」と 8 番手に留まってしまう。2 日連続の Q2 進出はならなかった。「ミスがなければ……と思いますが、今日は決勝レースで目立とうと思います！」とト部は予選の悔しさをレースにぶつけることを誓った。

続く公式予選 Q2 に出走したのは大湯。チェッカーラッブに向け、残り 1 分ほどから続々とタイムが記録されていき、

大湯も 1 分 22 秒 555 までタイムを伸ばすも、ライバルたちのタイムの上げ幅が大きく 5 番手となった。

「伸びしろがあまりなくて、僕たちはいっぱい歩きの走りでした」と大湯は振り返った。

「ただ、詰めるべき本当に細かいところが見出せてきたので、トップグループの集団に入ることができた感覚があります。うまく噛みあってきた感覚があります」

決勝に向け、さらにベースを上げるべく大湯は 5 番手から、ト部は 15 番手からレースを戦うことになった。



RACE

決勝レース

10月11日(日) 15:00～16:18 天候:晴れ 路面:ドライ
ベストタイム #38 ト部和久 1'25.056 (36L) / #39 大湯都史樹 1'24.339 (16L)

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGにとってさまざまなことがあったレースウィークも、この第10戦の決勝レースが締めくくり。午後3時、晴天が続き気温25度/路面温度34度というコンディションのもと、レースの火ぶたが切って落とされた。

予選後、「5番手はいちばん混乱に巻き込まれやすいですが、スタートで3番手あたりに上がればチャンスがある」と語っていた大湯は、好ダッシュを決めるとスタート直後のGRコーナーでアウトから#19 ザック・オサリバンに並びかけていく。しかしアウト側のスペースを失い、大湯はグラベルへ。10番手ほどにドロップしてしまった。

一方ト部は、スタートを決め1周目は15番手につけたものの、混戦のなか押し出され、2周目には18番手へ。それでも9周目に2台をかわすなど、ポジションを戻していった。

一時は中団に下がった大湯だったが、決勝はペースが良く、3周目に#8 山下健太をかわすと、5周目に#50 野村勇斗に仕掛けていく。GRコーナーで大湯は#50 野村に並びかけたが、2台は接触。野村はダメージを負いストップしセーフティカーが出されたが、幸い大湯にはダメージもなく、黒白旗提示でレースを続けることができた。

大湯はペースの良さを活かすべく、9周目のセーフティカー退去後、11周でピットウィンドウがオープンすると、アンダーカットを狙い15周にピットインを行った。コースに戻ってからも2周連続のファステストラップを刻むなど、作戦がズバリ的中。序盤2番手を走っていた#6 太田格之進が17周でピットインすると、大湯の目前に出てきた。大湯は一気にオーバーテイクを仕掛けたが、コカ・コーラ・コーナーで接触。大湯はスピンしてしまう。幸いダメージはなく、再度黒白旗が出されたのみでコースに戻った。

その翌周、#6 太田はアウトラップの#65 イゴール・オオムラ・フラガとクラッシュし、二度目のセーフティカーが導入される。ト部はこの間の20周にピットインを行い、ピットレーンの混乱も避け順位もジャンプアップ。25周目のリスタート時に2台がクラッシュした後、得点圏内の8番手まで浮上した。

3回のセーフティカーが入る大波乱のレースとなった第10戦だが、31周目のリスタート時、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは大湯が5番手、ト部が8番手と、2台入賞のチャンスが生まれていた。

しかしリスタートでは、隊列全体がかなりスローペースとなり、その中で加速のタイミングをうかがっていたト部が、#7 小林可夢偉に追突してしまった。ト部はブレーキにトラブルを抱えていたものの、セーフティカー中の追突はト部に非がある。またフロントウイングにもダメージを負い、後退を喫してしまった。

一方、大湯はリスタートで一気に2番手集団に襲いかかると、4台のバトルのなか#5 牧野任祐、#19 オサリバンをかわし3番手に浮上したが、36周目に地力に優るオサリバんに先行を許すことに。結果的に大湯は4位でゴールした。

ト部はピットイン後、フロントウイングを修復し、1周遅れの16位でフィニッシュ。ペナルティとして30秒加算もされた。ただ、ト部にとってはさまざまな教訓を得たレースウィークとなった。

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、最終大会となる鈴鹿へ向け、阪口晴南の回復を待ちながら準備を整えていく。



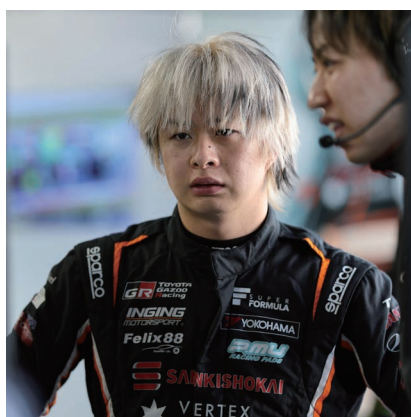
COMMENTS

ドライバー／監督コメント



38 ト部 和久 KAZUHISA URABE

「スタートも決められましたが、その後押し出されてしまい順位を落としてしまいました。ただ、自力でポジションをリカバリーできましたし、良いレースができていたと思います。セーフティカーのタイミングでピットに入ることができ入賞圏内に入ることができたのですが、セーフティカー中にブレーキがオーバーヒートしたような状態になってしまい、上位陣が加減速する間に、減速のタイミングでブレーキが効かず小林可夢偉選手に追突してしまいました。可夢偉選手、KDDI TGMGP TGR-DCの皆さん、チームに申し訳なかったです。初めて尽くしの中でポイントは欲しかったですし、自分がやれるところを最後まで見せたかったので、本当に悔しいのひと言です」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「僕のまわりでどんどん波乱が起きていましたし、まだレースは振り返っていませんが、表彰台争いができていたのも少し不思議なくらいでした（苦笑）。スタート直後に押し出され、その後追いついてピットタイミングもうまくいきましたが、優勝争いできるくらいペースが良かったです。太田格之進選手との接触、さらにセーフティカー2回の後、2番手争いのなかですき間の中のすき間に入っていき3番手に上がりましたが、最後はザック・オサリバン選手のペースには敵いませんでした。表彰台は獲れませんでした。優勝争いができそうなペースがあったのはすごくポジティブです。次回は最終大会の鈴鹿ですが、次に繋がるレースにできたと思っています」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「予選ではト部選手がQ1でミスがありましたが、パフォーマンス自体は高かったと思います。大湯選手については、今日は戦える位置につけられたと思います。決勝は激しい展開となりましたが、そんな中で2台とも混乱をくぐり抜け、ともに入賞圏内につけられました。その点は良かったのですが、SCラン中にト部選手のブレーキに問題を抱え、小林可夢偉選手に接触してしまいました。可夢偉選手には申し訳なかったです。ト部選手はこのレースを今後に活かしてほしいと思います。大湯選手は4位で表彰台には届きませんでしたが、次回に繋がれたらと思っています。次回、阪口選手も戻り、良いレースがみせられればと思います。応援ありがとうございました！」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第10戦富士スピードウェイ 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	1	岩佐歩夢	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:13'53.821	
2	19	Z. オサリバソ	WECARS IMPUL with SDG SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:13'55.168	1.347
3	22	松下信治	DELIGHTWORKS SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:13'55.597	1.776
4	39	大湯都史樹	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:13'58.257	4.436
5	37	S. フェネストラズ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:13'59.781	5.960
6	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M55 SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:14'03.018	9.197
7	16	野尻智紀	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:14'03.523	9.702
8	53	C. ブルツ	TEAM GOH SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:14'04.501	10.680
9	9	G. アレジ	KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:14'05.664	11.843
10	97	R. スタネック	ナビクル Buzz MK SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:14'08.723	14.902
11	14	福住仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:14'37.015	(1:14'07.015+30sec)
12	64	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:14'42.849	(1:14'12.849+30sec)
13	10	Juju	HAZAMA ANDO Triple Tree SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:14'43.370	(1:14'13.370+30sec)
14	7	小林可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:15'02.935	1'09.114
15	65	I. オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	40	1:14'17.447	1Lap
16	38	ト部和久	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	40	1:15'09.575	(1:14'39.575+30sec)
以上完走							
	8	山下健太	KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	24	42'54.702	17Laps
	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	24	43'05.228	(42'55.228+10sec)
	28	小林利徳斗	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	21	41'25.556	20Laps
	12	小出峻	ThreeBond SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	20	32'06.099	21Laps
	3	L. ブラウニング	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	20	32'18.311	21Laps
	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	18	29'57.306	(29'47.306+10sec)
	4	笹原右京	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	7	12'37.860	34Laps
	50	野村勇斗	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	4	5'47.734	37Laps

ドライバーランキング (上位)

Rank.	No.	Driver	Total
1	6	太田格之進	122
2	1	岩佐歩夢	89.5
3	65	I. オオムラ・フラガ	77
4	14	福住仁嶺	64
5	19	Z. オサリバソ	54
6	5	牧野任祐	46
7	36	坪井翔	43
8	39	大湯都史樹	43
9	37	S. フェネストラズ	40.5
10	16	野尻智紀	34.5
12	38	阪口晴南	27
—	38	ト部和久	0

チームランキング (上位)

Rank.	Team	Total
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	153
2	TEAM MUGEN AUTOBACS	101
3	VANTELIN TEAM TOM'S	83.5
4	PONOS NAKAJIMA RACING	80.5
5	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	66
6	NTT docomo Business ROOKIE	61
7	TEAM IMPUL	50
8	DELIGHTWORKS RACING	27
9	REALIZE KONDO RACING	19
10	ThreeBond Racing	11